

【注意】発行当時の原稿をそのまま掲載しております。農薬について記載のある場合は、最新の農薬登録内容を確認し、それに基づいて農薬を使用して下さい。また、成果情報によっては、その後変更・廃止されたものがありますのでご注意下さい。

[成果情報名] 短稈・良食味・高品質の水稲新品種候補「山形 112 号」の育成

[要 約] 「山形 112 号」は、“中生の晩”の粳種で、「はえぬき」並に短稈で耐倒伏性に優れ、玄米千粒重は「はえぬき」より大きく、収量性は並である。玄米の外観品質は、高温耐性が“やや強”で、背白粒の発生が少なく高品質である。炊飯米の光沢・外観・白さ・味が優れ、「はえぬき」に優る良食味である。

[部 署] 山形県農業総合研究センター水田農業試験場・水稲部

[連絡先] TEL 0235-64-2100

[成果区分] 普

[キーワード] 水稲、山形 112 号、短稈、良食味、高品質、千粒重

[背景・ねらい]

米の消費量が減少し、価格が低下している中で、消費者の良食味米志向は根強く、生産者からは、中生の良食味品種が要望されている。また、近年、登熟期の高温による米の品質低下が問題となっており、平坦地向けでは高温耐性があり良質な品種が要望されている。消費者ニーズおよび生産者ニーズに対応した高温登熟条件下でも品質が低下しにくく食味が優れる“中生の晩”品種を育成する。

[成果の内容・特徴]

1. 「山形 112 号」は、中生の良質・良食味品種の育成を目標に、「山形 80 号」を母、「山形 90 号」を父として平成 15 年に人工交配を行い、その後代から育成された品種である。
2. 出穂期、成熟期とも「はえぬき」並で、育成地では“中生の晩”に属する粳種である（表 1）。
3. 稈長は「はえぬき」より 2cm 程度短い“短稈”で、穂長は並、穂数は多い。草型は“偏穂数型”で、耐倒伏性は「はえぬき」並の“強”である（表 1）。芒は先端のみに生じ、芒の長さは“短”で、穎色は“黄白”、ふ先色は“白”である。
4. いもち病真性抵抗性遺伝子型は“*Pia, Pii*”と推定され、圃場抵抗性は、葉いもちが“やや強”で、穂いもちは“強”である。障害型耐冷性“やや強”、穂発芽性は“やや難”である（表 1）。
5. 玄米千粒重は「はえぬき」より大きく、収量性は「はえぬき」並である。外観品質は、高温耐性が“やや強”で、背白粒の発生が少なく、「はえぬき」を上回る高品質である（表 1、図 2）。
6. 食味は炊飯米の光沢・外観・白さ・味が優れ、「はえぬき」に優る良食味である（表 1、図 1）。
7. 精米アミロース含有率は「はえぬき」よりやや高く、精米粗タンパク質含有率は並であり、味度値は、「はえぬき」を上回る（表 1）。
8. 直播栽培における収量性は「はえぬき」並で、玄米品質は「はえぬき」に優る。

[成果の活用面・留意点]

1. 適応地帯は、山形県内平坦部。
2. 短稈で倒伏しにくいのが、良質・良食味米の生産のため、多肥栽培を避ける。

[具体的なデータ]

表1 「山形112号」の特性一覧

系統名	山形112号	組合せ	山形80号／山形90号
特性	長所: 1. 炊飯米の外観と味が優れ、良食味である 2. 玄米は背白粒の発生が少なく、良質である 3. 短程ではえぬき並に耐倒伏性に優れる		短所: 1. 耐冷性がやや強である
調査地	育成地(鶴岡市)		
調査年次	平成19~26年(多肥 平成20~26年、直播 平成21~26年)		
品種名	山形112号	はえぬき	ひとめぼれ
早晩性	中生の晩	中生の晩	中生の晩
草型	偏穂数型	中間型	偏穂数型
出穂期(月.日)	8.5	8.5	8.4
成熟期(月.日)	9.16	9.16	9.14
稈長(cm)	67	69	78
穂長(cm)	17.7	17.4	18.7
穂数(本/㎡)	543	486	517
倒伏程度(0~4)	0.1	0.0	1.0
いもち真性遺伝子型	<i>Pia, Pii</i>	<i>Pia, Pii</i>	<i>Pii</i>
葉いもち	やや強	中	やや弱
穂いもち	強	中	中
白葉枯病	やや強	中	中
耐倒伏性	強	強	やや弱
耐冷性(障害型)	やや強	極強	極強
穂発芽性	やや難	やや難	難
高温耐性	やや強	中	中
精玄米重 標肥	58.4(102)	57.4(100)	60.5(105)
(kg/a) 多肥	63.1(98)	64.4(100)	65.5(102)
直播	53.8(100)	53.7(100)	—
玄米千粒重(g)	24.3	22.5	23.1
玄米品質 標肥	3.2	3.7	4.3
(1良~9劣) 直播	3.3	3.8	—
精米アミロース含量(%)	21.0	19.0	19.0
精米粗蛋白質含量(%)	6.6	6.5	6.1
味度値	82	78	80
食味総合評価	0.26	基準	0.07

食味総合評価:「はえぬき」基準で -3~(0:はえぬき)~+3

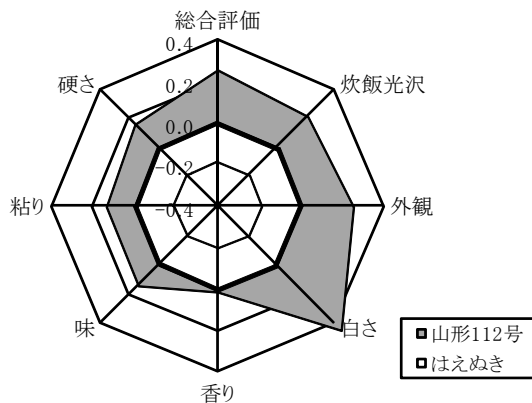


図1 「山形112号」の食味特性
 育成地生産力検定試験 平成19~26年
 基準(0.0): 育成地産「はえぬき」

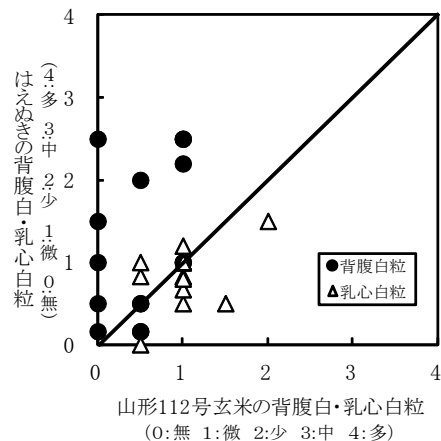


図2 玄米の背腹白粒・乳心白粒の比較
 育成地場内 平成19~26年

[その他]

研究課題名: 第V期水稻主力品種の育成

予算区分: 県単

研究期間: 平成26年度(平成15~26年度)

研究担当者: 本間猛俊、中場勝、鈴木隆由輝、阿部洋平、渡部貴美子、結城和博、佐野智義

後藤元、渡部幸一郎、森谷真紀子、佐藤久実、水戸部昌樹、齋藤信弥、齋藤寛、齋藤久美

発表論文等: なし